

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 2月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270300462		
法人名	株式会社 あおぞら福祉会		
事業所名	グループホーム おあぞら		
所在地	長崎県島原市下折橋町 3433 番地 1		
自己評価作成日	H25年12月25日	評価結果市町受理日	H26年2月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 1月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームあおぞらは、利用者のその時の気持ちを汲み取って安心して暮らせるように支援している。例えば、買い物に行きたい・お墓参りに行きたい・趣味の裁縫をしたいなど状況や要望に応じた柔軟な支援を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当ホームの施設長は、開設 10 年を振り返り職員への感謝がすべてと話され、現状の取り組みも職員の意欲的な業務への理解を持って、職員の心と体の安定を考慮して、休憩時間も大切にされている。職員の挨拶や利用者への関わりの様子から、日常的な朝礼での心がけの唱和やロゴ入りの衣服の統一性により、職員の意識の高さを窺うことができる。職員研修も積極的に指導者研修へ多数参加して、指導もできる人材育成を考慮されている。職員は、入居者の皆さんが「ここがよか」と笑顔で過ごせる様に、買い物支援やドライブ等で入居者一人ひとりのペースに合わせた自立支援に努めて、職員が心を寄せて尽力されている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げわかりやすい場所に提示し、毎朝の朝礼で復唱することにより実践につなげている。	職員の提案で見直された介護理念等を朝礼で唱和して声にする事で、入居者の大切な一日に関わり、生きがいのある暮らしへの支援に努めている。心掛けておくべき職員の意識の共有を育まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設・地域の行事に参加し、地元の学生と和太鼓や学習体験等により日常的に交流出来るよう努めている。	自治会に加入され、地区の祭事のお誘いに参加して、入居者の生きがいの持てる生活へと繋がられている。民生委員との交流や地域との協力関係の構築を考慮して介護教室も検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症を理解してもらえる様に、施設見学・ボランティアを積極的に受け入れ、理解・支援に努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進委員会を開き、利用者へのサービス状況や、日々の取り組み等、報告・話し合いを行い努めている。	地域との協力体制の構築を図り、入居者の状況報告をインシヤルで説明する等、参加者より、率直な意見に対応して理解を得られている。会議での質疑応答の内容を議事録として、取り組みへの振り返りとされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と情報交換を行い、よりよいサービスが提供出来るよう協力関係を築くように取り組んでいる。	市庁舎内の有料電光掲示板にて、事業所マップの活用でアピールに努めたり、事業の開設で信頼と協力関係を更に深められている。グループホーム連絡協議会等の役員を積極的に取り組まれている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修会への参加や日々の話し合いの中で、身体拘束に対し正しく理解出来るよう機会を設けている。</p>	<p>職員は、入居者が居心地の良い環境で過ごせる様に、身体拘束をしないで行うケアを実践されている。職員の連携により、入居者に寄り添い話をしっかりと聞いて安心してもらえる様な関わりを心掛けられている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会へ参加することで虐待の意識向上をはかり、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会へ参加し、権利擁護について理解を深め、職員間で学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ前には、必ず十分な説明と施設内見学をして頂き理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関には意見箱を設置し意見を話せる体制作りや面会の際には、家族とコミュニケーションを図り意見・要望を反映させている。</p>	<p>「あおぞら通信」を3ヶ月おきに作成して、ホーム全体の取り組み状況や職員紹介等の報告の他に、入居者一人ひとりの生活状況の写真と担当職員の細やかな言葉を添えて家族に発送されている。必要に応じて担当職員より、家族へ電話で報告をされている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の申し送りで意見や提案を話せる機会があり運営に反映させている。</p>	<p>職員は、研修やセミナーの参加や朝礼の唱和で、職員としての心がけと専門知識を学び、働きがいを持って努力されている。施設長は、職員の自主性を育み意見の言える関係性を保ち、相談にも応じられている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを密に行い各自が向上心をもって働きやすい職場環境の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会の機会を多く設け、技術や知識を学びスキルアップを図っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>介護福祉士会やグループホーム連絡協議会の研修会等に参加し、スキルアップ・サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日常生活の中でコミュニケーションを図り、要望など傾聴し安心して相談出来る受容の姿勢で信頼関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人の生活歴をよく把握し家族が困っていること不安なこと、要望などに耳を傾けながら関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援を見極め多角的な視点からの対応に努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや野菜の下ごしらえ等とともに 行い、生活共同体として関係を築いている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、面会時等に本人の状況を報告したり家族の要望があれば電話報告をするなど、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人馴染みの美容室や病院などを利用し、人や場所との関係が途切れないように努めている。	利用者の希望に沿って教会やお寺・墓参り等の同行支援をされている。家族と電話で会話をされたり、家族の葬儀に参列して、親戚の方の訪問への声掛けをして、関係継続の支援を配慮されている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団で出来るレクや週に一度のドライブに行ったり、孤立せず支え合えるような支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係を大切にし、経過のフォローや相談・支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴を知り、希望していることを見極め、家族からも情報を聞いたり馴染みの物を置くなど以降の把握に努めている。	聞き取りは、入浴時やゆったり過ごされている時に伺い、記録に残して家族への報告や実行に繋げて支援されている。帰りたい、食べたい等の希望に応じて気分転換を図り、心地よい日々の生活を支援されている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーション・家族からの情報にて、これまでの暮らし方・経過等の把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人日誌の記録・健康観察を行い、現状の把握に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーと多面的な視点から情報交換し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員が聞き取りや情報収集に努めて、入居者の詳細なアセスメントを作成されている。日々の生活の過程を踏まえて、分析し課題を目標に掲げて支援に努められている。3ヶ月おきの評価により、見直しをされている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録の中に、細やかな気づき変化を記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間を通じ、その時々ニーズに応じて本人、家族の状況・面会等も柔軟に対応し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて警察・消防などの機関と連絡出来る体制をとり、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を深め、通院なども看護師・職員が同行し情報交換を行い早めの受診を心がけている。	家族の承諾でかかりつけ医を変えられたが、入居者の状況の安定が得られず以前のかかりつけ医の受診に努めて支援されている。受診の際は、施設長が早朝に受診の順番取りで行かれ、診察時も職員が同行されている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や日々の状態に変化がある時は、看護師へ報告し適切な対応や受診を受けられるよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には不安にならないよう毎日面会へ行き、病院との情報交換など状態の把握に努めている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人・家族等と納得いからるまで話し合い、その人らしい生活が出来るよう今出来る事を大切にしていこう取り組んでいる。	入居者の看取りの状況の経過は多様なケースがあり、入居時及び状況変化の必要性に応じて、家族と話し合い家族の気持ちや要望を受け入れながら、訪問看護や人員増員等職員の話し合いであらゆる手段を考慮して取り組まれている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方や研修会へ参加したり、緊急時対応マニュアルを作成しており、急変・事故発生時に備え実践力を身に付けている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち会いのもと消防訓練を行い、利用者と避難訓練を行っている。	職員は、訓練によって入居者の安全避難への意識を持ち、迅速な行動ができる様に心掛けられている。地域の消防団との連携と関係構築に努め、緊急時は、拡声器で地域の協力も呼びかけられる様に考慮されている。	ホームの耐震強度や防犯体制の契約等万全な体制を整えられているが、更に備蓄一覧表による消費期限の確認及び備蓄品の補充を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけや配慮を行い、間違っただ対応や言葉かけには職員間で注意し合っている。	利用者間のトラブルは、積極的に加わり話題を変えて、穏やかな雰囲気作りに留意されている。入居者は、目上の方である事を大切に、ノックをしての入室や名字での声掛け等ひとつひとつ細やかな言葉掛けを心掛けられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように日頃からのコミュニケーションを大切にし、意思表示が出来る様な状態を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、体調や気分にも配慮した対応、本人の希望を大事にしていり。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時には化粧をしたり入浴時の洋服を一緒に選んだり、希望に応えられるような体制を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握し見た目や一人一人に合った食糧で提供し、食前のごしらえ・食後の片づけ等一緒に行っている。	入居者の好みや食べたい食品の聞き取りをして、毎月1日・15日は赤飯と彩り・旬の食材で食の楽しみを工夫されている。職員は、入居者の誤嚥に配慮して、食事介助や見守りをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力に応じて食べる量や栄養バランス、水分量を把握し支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は利用者全員に声かけをおこない欠かさず行っている。また夕食後は義歯の清潔を保つため洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、トイレの声かけ・誘導を行い、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。	入居者一人ひとりの排泄状況に応じて、布パンツにパット使用等に対応して、トイレにて自立に向けた支援をされている。特に、女性入居者の排尿疾患等にならない様に清潔を保ち留意されている。	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便の有無をチェックし看護師と相談しながら十分な水分補給や食事の工夫をしたり、適度な運動を取り入れている。</p>		
45	<p>17 ○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日や時間帯は決まっているが、出来るだけ本人の希望に沿って体調を見ながら支援している。リラックスして入浴出来るよう入浴剤を使用したり足浴を行っている。</p>	<p>毎日でも入浴は可能だが、週に3回午前中に入浴支援をして、皮膚のチェックや皮下出血等異常がないか確認のうえ、入浴を気持ちよく楽しんで頂ける様に支援されている。入居者に応じた介護用品も整えられている。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりに合わせた空間作りや寝衣・空調にも気をつけ安心して休めるよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>すべての薬を理解するのは困難であるが看護師に確認したり、説明書を読んで理解し服薬の支援・症状の変化の確認に努めている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴を大事にし洗濯物たたみや料理の下ごしらえ、レクやドライブを通して時期に応じた作業や役割、気分転換の支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>近隣の散歩やホームの買い物に職員と同行したり、ご家族とも協力しながら外出・外泊の支援を行っている。</p>	<p>一時帰宅の送迎支援を行い、入居者の思いに添った外出で心の安定を心掛けられている。外出時の職員同行も安全に配慮して、花見や初市等地域の催しを楽しんで頂ける様な外出を支援されている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の意志を大切に、希望であれば一緒に買い物へ行きお金を所持したり使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は利用者の見える位置に設置し、いつでも使用できるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングや居室には季節に応じて飾り物を作ったり、写真の展示・生花・時期にあったBGMを流し、いつでも居心地良い空間を提供出来る工夫をしている。</p>	<p>季節を感じられる様に、飾り付けの交換や職員の言葉掛けの音域にも配慮されている。食事時のテレビ視聴はなく、穏やかな音楽に耳を傾けて職員の介助の下、食事をゆっくり楽しまれている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う利用者同士の席にしてあり、居室・和室を自由に移動できテレビを見たり横になったり、ゆっくり過ごせる場所がある。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や好みのものを配置し、各居室担当者が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	入居者がゆったりと過ごせる大切な空間である事を認識して、入室時や衣類交換の際は必ず了解を得て支援されている。掃除や温度・湿度・臭気等に配慮して、居心地の良さを心掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、夜間は足元が点灯するなど安全な環境である。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない